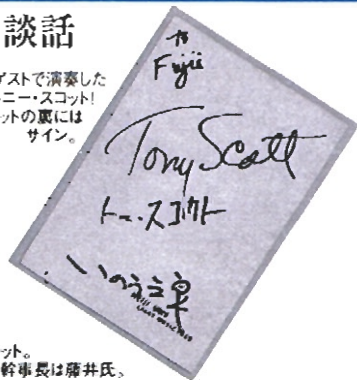


私の時代

藤井 英一 (S37年卒 BH) 談話



ゲストで演奏した
トニー・スコット!
パンフレットの裏には
サイン。



第三回の明治大学
軽音楽倶楽部定期演奏会のパンフレット。
表紙はカラー印刷でしっかりしたもの。幹事長は藤井氏。

認可される前の話!

明治大学で音楽をやってます、と言うとかならず「マンドリン部ですか?」って聞かれたものだよ。まったく! マンドリン部の影にすっかり隠れてかすんでいた。軽音楽倶楽部が、まだ、正式な部として大学から認可される前の話だよ。

ダンスパーティーが盛んな時代

音楽が好きな連中、前会長の島田さんたちのMCのメンバーの面々や僕達のハワイアン仲間が記念館の裏の小さな部屋に溜まって音楽の話に花を咲かせてたもんだ。もちろん正規の部室のあたえられているわけがなく、校舎のちっぽけな一角、たしか柔道部の部室の上あたりだったかな。僕らが演っているハワイアンやウエスタンなどの音楽の人気はかなりのものだった。需要があってバンドはいつも引っ張りだ。学内外でダンスパーティーが盛んな時代だったからね。お呼びがかかるんだよ。だから、実入りの点でもかなり恵まれていたな。ただ、地方の巡業にはまだ行けなかった。明治大学のOBが主催して県人会が興業を仕切る演奏会というのが、当時、地方ではよく行われていたんだ。大学の名を冠した正式な演奏会だから、同郷会的な寄り合いじゃ演奏する場が与えられないんだ。早稲田のソサイティーや法政のカントリーレンジヤース、立教など普段つき合いのある連中が演奏会に誘ってくれるんだけど、残念ながら出られない。ならば、正式な部にしよう!と、そういうことになったんだ。

正式な部にするために...

ところが、当時はね、バンドには金銭的なトラブルが付きものだった。バンドで演奏すると1ステージで1人当たり1千円~2千円もらえるんだよ。今のお金で1万~2万ってお金が簡単に稼げるから、ギャラのことや税金のことで揉め事がよくあったんだ。大学側してみれば、認可を出せば、それぞれオフィシャルバンドの名を冠した学生たちが金儲けするその片棒を担ぐようなものだから、そうそう認可

なんてなかなかしないもんでね。じゃあ、どうしようってことで、実は、僕は体育会のスキー部にも所属してたんだよ。そのころの明治のスキー部はオリンピックにはばんばん選手を送り込んでいた時代だから、大学の関係者に顔がきくOBがけっこういたんだ。そういうOBから部の認可を決める担当の人を紹介してもらって、飲ませて食わせて、いわゆる接待だよ。そんなことをして、やっと、軽音楽倶楽部は正式な部になったわけだ。今だから、もう時効だね(笑)。

楽しくて?5年も行った大学生

倶楽部では、初代幹事長としてマネージャー、そして自分リーダーのバンド、ワイキキドリーマーズのベーシストとして忙しくやっていた。音楽活動を中心とした学生時代はそれは本当に楽しかったよ。おかげで大学には5年も行ったけど。社会とはなんぞや、人とのつき合いなんて、あの頃の倶楽部の活動を通して全部得たものだよ。今、クリニックをやってるんだけど、僕自身は医者ではないんだ。医者がミュージシャンだとしたら、僕が頭下げたり、目をつぶったりと医者を束ねているマネージャーだね。人との接し方や駆け引き、組織のあり方など多くのことは、あの頃バンドで、倶楽部の運営で学んだことそのものだよ。

何よりの宝はやっぱり友人

軽音楽倶楽部で得た一番のこと、それは友だちだよ。楽しかったこと、馬鹿やったこと青春時代をいっしょに生きた友だちが何よりも宝だね。軽音楽倶楽部の友だちと昔話で盛り上がると「明日を生きる活力」がわいてくるもんだよ。そんな友だちと再会できるOB会は大切にしていかなくちやいけなと思うてる。そして、何よりも現役の学生達のことを考えてあげなくてはならないな。OBなんて言っていられるのは現役の音楽を演っている学生たちがいて、倶楽部があって始めて成り立つことなんだよ。だから、現役たちが困ってること、就職の面倒を見るとか寄付金を出すなど僕達OB会がしてあげられる唯一のことはどんどんしていきたいと考えているよ。



バンドの思い出を写真やスクラップでつづったアルバム。勤め人の給料一ヶ月分を一夜で使いさす! 藤井さん企画の温泉豪遊旅行のスナップと宿の領収書。